

青い森鉄道(株)中期経営計画（H28～H32）の概要

第1．中期経営計画策定の趣旨

- ・ 寝台特急収入減による厳しい経営状況
- ・ 線路使用料の減免を前提に収支均衡を目標とする中期経営計画の策定
- ・ 貨物列車運行への青い森鉄道の新たな役割等を踏まえた国支援措置
（JR貨物から毎年度約6億円の収入）
- ・ 計画期間内の線路使用料支払額約22億円、累積赤字約530万円に減少

第2．中期経営計画（平成24年度～平成27年度）の総括

1. 新造車両の導入
2. 雪害対策による運休・遅延本数の低減
3. 業務委託費の縮減（駅清掃業務及び無人駅集改札の直営化）
4. 安全の確保を最優先にプロパー社員の人材育成を実施した結果等により、当初の要員計画と実績に乖離
5. 線路使用料とJR寝台特急廃止の影響
 - ・ 平成24年度～平成26年度 約3億4千万円
 - ・ 平成27年度 約6千6百万円の見込み

■線路使用料の計画及び実績（平成24年度～平成27年度）

（単位：千円）

	H24	H25	H26	H27(見込)	計
計画額	62,720	43,154	154,272	243,872	504,018
支払実績額 (27年度は見込額)	73,950	113,421	157,601	66,124	411,096
減免額	668,133	590,939	514,177		1,773,249
総額	742,083	704,360	671,778		2,118,221

第3. 課題

1. 沿線人口の減少による収入への影響
2. JR寝台特急の廃止による収支への影響
3. 計画的なプロパー社員の採用及び育成

第4. 経営計画

1. 青い森鉄道株式会社の使命
地域住民の日常生活に欠くことのできない重要な足として旅客輸送を確保
2. 経営の基本方針
 - (1) 安全で安定した旅客輸送と利用者の利便性の確保
 - (2) 効率的な業務体制の構築等による健全な経営の確立
 - (3) プロパー社員の計画的な採用及び育成
3. 平成28年度からの青い森鉄道に対する国の措置
(JR貨物から毎年度約6億円の収入)
4. 収入面における取り組み
 - (1) 旅客運輸収入の見込み

(単位:千円)

年度 種別	H27	H28		H29		H30		H31		H32	
	収入見込	収入見込	減少率	収入見込	減少率	収入見込	減少率	収入見込	減少率	収入見込	減少率
普通運賃	983,810	968,520	1.6%	978,892	0.8%	971,338	2.6%	963,784	2.6%	956,227	2.6%
通勤定期	214,898	214,116	0.4%	213,755	2.0%	209,429	3.8%	205,102	3.8%	200,773	3.9%
通学定期	188,624	187,096	0.8%	186,402	2.2%	182,243	4.0%	178,085	4.1%	173,922	4.1%
合計	1,387,332	1,369,732	1.3%	1,379,049	1.2%	1,363,010	3.0%	1,346,971	3.0%	1,330,922	3.0%

※平成27年度は4～12月は実績、1～3月は見込額にて計上

- (2) 沿線高等学校の動向を踏まえた通学時間帯のダイヤ見直し等
 - ・青森商業高校の旧青森戸山高校移転(平成29年春予定)への対応等
- (3) 他交通機関と連携した商品の造成等
- (4) 「青い森ホリデーフリーきっぷ」の増売等の取り組み

5. 支出面における取り組み

(1) 効率的なダイヤ設定等

- ・利用状況に合わせた形での見直し（日中時間帯の運行ダイヤの見直しや土休日ダイヤの実施）により、平成 27 年度に比べ列車走行距離を 2 割程度削減等

(2) 利用状況に即した駅業務体制の見直し等

- ・朝の通勤・通学時間帯における土休日集改札の取り止め
（平成 28 年 3 月ダイヤ改正時～）
筒井駅、東青森駅、小柳駅、矢田前駅、野内駅、陸奥市川駅
- ・駅窓口業務について、平日は営業時間を短縮、土休日は取り止め
（平成 29 年 3 月ダイヤ改正時～）
小湊駅、乙供駅、上北町駅、下田駅、剣吉駅、三戸駅
- ・自動券売機の撤去（平成 29 年 3 月ダイヤ改正時～）
目時駅、諏訪ノ平駅、苫米地駅、北高岩駅

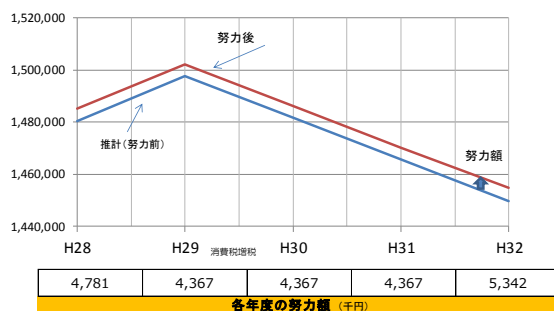
(3) 業務委託費の削減等

- ・駅・車両等清掃業務の委託費見直し（平成 28 年度～）
- ・一般管理費の年 5%シーリング（平成 28 年度～）

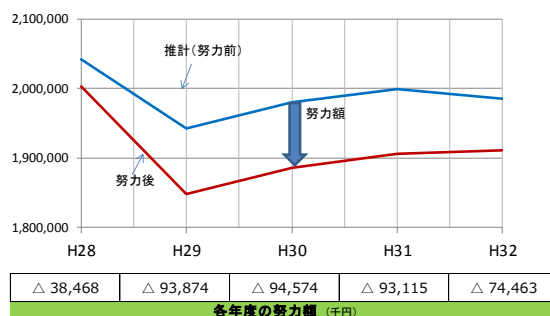
(4) プロパー社員への計画的な転換、人件費は増加傾向

■収入確保・経費節減の努力状況（単位：千円）

○収入



○経費



6 線路使用料について

計画期間における県への線路使用料支払額は約 22 億円の見込み

■計画期間（平成 28 年度～平成 32 年度）における線路使用料と支払計画

（単位：千円）

	H28	H29	H30	H31	H32
県からの請求額	531,332	442,933	437,646	437,646	437,646
支払計画額	459,761	442,933	437,646	437,646	437,646
減免額	71,571	0	0	0	0

7 事業収支計画の見込み（平成 28 年度～32 年度）

（単位：千円/税込）

	H28	H29	H30	H31	H32
鉄道事業営業損益	46,891	223,166	185,131	125,775	116,740
収入計	2,510,075	2,514,195	2,508,506	2,469,124	2,465,773
旅客運輸収入	1,485,129	1,502,095	1,486,056	1,470,016	1,454,943
旅客収入	1,485,129	1,502,095	1,486,056	1,470,016	1,454,943
寝台特急等収入	0	0	0	0	0
運輸雑収入	195,294	162,761	174,400	149,275	153,500
運行管理等収入	829,652	849,339	848,050	849,832	857,330
支出計	2,463,184	2,291,029	2,323,375	2,343,349	2,349,033
人件費	793,023	768,044	767,344	778,083	812,918
業務費	1,330,626	1,208,026	1,251,929	1,234,849	1,206,362
うち線路使用料	459,761	442,933	437,646	437,646	437,646
減価償却費	184,972	135,208	137,131	172,620	158,209
諸税等	154,563	179,751	166,971	157,797	171,544
付帯事業営業損益	5,072	4,829	4,633	1,589	1,147
営業外損益等	△ 46,939	△ 101,348	△ 88,599	△ 68,245	△ 64,439
税引後損益	5,024	126,647	101,165	59,119	53,448

	H28	H29	H30	H31	H32
当期純利益	5,024	126,647	101,165	59,119	53,448
繰越利益剰余金	△ 345,683	△ 219,036	△ 117,871	△ 58,752	△ 5,304